

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2672900293		
法人名	社会福祉法人 秀孝会		
事業所名	グループホーム京都ひまわり園 1階 さくら		
所在地	京都府八幡市八幡清水井20番地		
自己評価作成日	令和2年11月13日	評価結果市町村受理日	令和3年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者がその人らしく生活できる事と心から自分の家と思える場所「第二の我が家、第二の家族」を目指し、家庭的な雰囲気の中での生活を継続できるサービス提供に努めています。今年度はコロナウィルス感染予防の為、外出制限や職員、家族、近隣との関わり方、生活全般においてこれまでと違う生活様式を提供しなくてはいけなくなり、このコロナ禍でできるグループホームとしての役割や生活特性とは何か、これまでのように進めることが出来ないことも数多くある中で今できる最善を考えて取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&UgyosyoCd=2672900293-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83番地「ひと・まち交流館 京都」1階
訪問調査日	令和2年12月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念に基づき事業所目標「第二の我が家、第二の家族」と掲げて日々のケアに繋がっています。介護計画は利用者が話された言葉そのままを目標として支援計画を作成して利用者の姿が見えてくる計画になっています。個別外出支援も誕生日に「行きたい所やしたいこと」を利用者と一緒に計画し、馴染みの所やしたいことが実現する支援を今迄はしていました。入浴は利用者の入りたい時に、朝から夕方まで、希望があれば夜間でも入れるようにしお風呂好きの利用者に喜ばれています。入居時から着取りケアの希望者が多く、住診医や訪問看護師共に24時間オンコールで提携し職員や家族の安心を得ています。看取った後もデスカンファレンスで、職員が思いを吐露できる、心のケアを大切にされています。コロナ禍で行事や外出、面会に制限があり、法人主催のひまわり祭も姿を変えて、利用者が楽しめるよう取り組みました。利用者の笑顔を求めて、コロナ禍の地域との交流の在り方を課題とされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、事業目標と同時に基本姿勢を策定している。法人ホームページや事業所パンフレットにも掲載し、理念は事業所玄関に掲示しており周知に努めている。	法人理念「隅一千照」の実現に向けて事業所目標として創設時の職員で話し合い「第二の我が家・第二の家族」と掲げ、新人採用研修や日常業務に照らし合わせて振り返りを行っている。法人ホームページやパンフレットに掲載し事業所玄関と事務所に掲示して利用者・家族、地域、職員で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりについて今年度は敬老会や防災訓練等の地域行事が中止となっている。日常的な交流や関わり方について、これからの暮らしを含めて検討が必要な状況である。	老人会の事業や保育所の運動会、小学校にベルマークを届けていたが、コロナ禍で行事はすべて参加できなくなった。傾聴ボランティアや介護支援サポーターに利用者の支援をして貰っていたのも中止になる。法人主催のひまわり祭も家族や地域の参加もなく、ユニットごとのお祭りメニューを利用者は楽しんだ。地域の一員として、今後の交流の在り方を課題としている。「認知症あんしんサポート」の相談窓口に指定されており、法人関係者及び管理者が対応している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年間を通して認知症相談窓口の設置をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地域医院から意見聴取や情報収集を行い、サービス向上に努めている。	運営推進会議のメンバーは八幡市高齢福祉課・地域包括支援センター・利用者家族で2か月ごとに開催している。議題は利用者や職員の状況、行事、研修などの実施報告だが、コロナ禍で資料を渡し意見を貰う書面での会議に変更している。玄関に議事録のファイルを置き閲覧出来るようにしている。	議事録を各家族に配布し、運営推進会議で協議されている内容を知って貰うと共に、協働への意識を持ってもらう機会とされることをお勧めする。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて適宜連絡、訪問している。市町村担当者には運営等に関して相談、助言を頂くようにしている。	八幡市の担当職員には運営推進会議で事業所の状況を知って貰っている。また、議事録や報告事項などを提出する機会をとらえては相談に行くなど協力関係を築けている。市が主催する集団指導や事業所連絡会などはコロナ禍で出席出来ていない。	

京都府 グループホーム京都ひまわり園 1階 さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会に参加し情報を現場で共有している。身体拘束のグレーゾーンについても事業所会議で話し合い、職員が身体拘束について意識する機会を持っている。	「身体拘束廃止に関する指針」を作成し「身体拘束廃止委員会」を3ヶ月毎に行い、法人で全職員対象の研修を開催し、事業所の職員会議で勉強会をしている。利用者の不安や混乱されている時は職員が傍について取り除く工夫をしている。また、繰り返し部屋の窓から、外に出ていこうとされ、怪我をされた利用者への見守りや、対応について職員で話し合い、拘束にならない方法で危険防止に努めている。日々、言葉の拘束にも気を付けるように努めている。	職員会議の中で身体拘束・看取り・接遇・プライバシー保護など多くの勉強会に取り組まれているが、年間研修計画が確認できませんでした。年間を通しての研修計画を作成されることをお勧めする。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会と並行して事業所勉強会を開催している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会にて学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、改定時には書面にて説明を行い、同意・署名・押印頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や電話、面会時等に意見を出していただく機会を設けている。	利用者とは季節の手作り作品やそれぞれが好むレクリエーションは意向を聞いて取り組んでいる。家族からは運営推進会議や電話、短時間の面会時に意見を聞いている。家族へは請求書と一緒に写真やコメントをそえて届けている。アンケートや意見箱の設置はしていないが、いろいろの角度から、家族の思いを勘案し、今後の課題としている。家族からは管理者や職員の忙しさを心配して人員増を申し出ている。	意見箱の設置や家族の意向の把握を目指してアンケートを実施されることをお勧めする。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催する職員会議にて単年度事業計画の進捗把握を行い、適切な事業運営に努めている。	日常業務の中や全職員対象の職員会議で職員の意見を聞いている。会議は議題を先に配布し欠席者の意見も含めて聴けるようにしている。窓から出られる利用者への対応方法やアロマセラピーを使っていく意見が出され、反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期開催している安全衛生委員会で確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	所内で会議時に認知症についての研修を継続している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都府老人福祉施設協議会グループホーム委員会に加盟しているが人員不足の為、十分な派遣はできていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴を含め、ご本人やご家族に協力して頂きできるだけ多くの情報を頂けるように努めている。特に初期段階では関りを多く持ち、馴染みの部屋作りをご家族にも行って頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の情報収集と並行して行い、家族関係など提供いただく情報を活用している。ケアプラン作成の為にもご家族の意見をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の置かれている状況を勘案し、暫定プランを作成し必要な支援が出来るように短期間でも見直しを行い、柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人ひとりのできることを把握し、活躍できる場を作れるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時に生活状況を共有して頂けるよう報告に努め、ご家族にしかできない役割、支え方を継続して頂けるように伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	LINEテレビ電話面会、予約制の面会を行っている。これまでと同様の人や場所の継続支援は十分には行えていない。	初回面談シートで、利用者の生活歴や馴染みの人や場など把握したことをアセスメントシートに記載し、継続支援が出来るように多くの情報を収集している。今までは馴染みの美容師の来所や馴染みの美容院、今迄行っていたサークル活動の参加に職員が付き添う支援をしていた。また、利用者の馴染みの店やスーパー、喫茶店に好きなコーヒーを飲み、そして、入所までに住んでいた近くのうどん屋に行っていたなど、利用者の馴染みの関係の発掘と体験できる支援に取り組んできたが、コロナ禍で外出や面会の制限があり、利用者の馴染みの関係の継続支援に頭を悩ませている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性に留意し、利用者同士が主体的に関わりあうことが出来る環境を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	このコロナ禍の状況が落ち着いたらぜひホームでの活動に協力したいとの声を契約が終了した家族からもいただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	24時間シートやアセスメントシートを活用し担当職員だけの意向把握に留まらないように職員それぞれが受け止めた本人の希望や意向を全職員で共有できるようにしている。	アセスメントシートに記入した本人の意向に加え担当職員が利用者の24時間シートを記入し利用者の事を深く知るように努めている。また、職員それぞれが、利用者の希望や意向を職員会議で発表して全職員で共有している。意思表示が出来ない利用者には、入所初めからの情報を職員間で共有し日々の関わりと感覚を大切に、信頼関係を持つるようにして利用者の思いが分かるような関わり方になるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	毎月のモニタリングや定期アセスメントを実施し状況把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケース記録に記載し特記事項は情報が把握しやすい様に日誌に記載している。		

京都府 グループホーム京都ひまわり園 1階 さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を聴取し、主治医との緊密な情報共有と意見聴取に努めている。スタッフの意見も反映し計画原案作成に努めている。	初回面談シートや入所までの情報や医療情報から、利用者家族も入るサービス担当者会議を開催し、その人の思いに即した介護計画を作成している。日々のケース記録や特記事項を記録した日誌から計画作成者が毎月モニタリングを実施して、職員に周知している。担当職員が24時間シートに利用者の様子を6か月毎にまとめて職員会議で共有し、サービス担当者会議を経て、必要時は介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々支援状況を記録し、定期的にモニタリングを行い、必要に応じた計画作成見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージや訪問歯科診療の受け入れを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでと同様の地域資源活用は行えていないが施設で何が出来るのか、その人の暮らしが豊かになるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多くの入居者が看取りケアを希望され、近隣医の訪問診療を受けている。状態変化に応じてカンファレンスを開催し情報共有を行っている。	契約時に本人・家族に医療機関を決めて貰い、内科は協力医や近隣医の往診(3ヶ所)で受診されている。往診は月1回または2回でそれぞれの希望で選んで貰っている。訪問歯科医も希望により受診できる体制がある。訪問看護師、往診医共に24時間オンコール体制が敷かれ、指示や往診が受けられるので、家族の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携している訪問看護ステーションから看護師派遣を受けている。健康面での情報は訪問看護及び訪問診療時に共有できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設から情報提供を行い、退院時には退院前カンファレンスや看護サマリー等で情報を収集し、スムーズな退院につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りケアについての説明や意向確認を行っている。定期的カンファレンス時には意向の変化がないか確認を行っている。	看取り希望者が多く毎年4～5人の方の看取りケアをおこなっている。家族には入所時と容態変化時に医師の判断で意向確認をしている。、ターミナルケアを取り組むにあたり、往診医を交えて介護計画を立て同意を得ている。ケアスタッフ会議内で職員の研修をおこない、看取り後は職員の心のケアも含めデスクカンファレンスを行っている。看取りに関するマニュアルは作成されていない。	多くの利用者・家族が事業所での看取りを希望されており、たくさんの経験がされている。重度化した時や終末期の在り方について、利用者・家族・事業所で共有していくためにも、「重度化や終末期対応マニュアル」の策定が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急、事故発生時の対応マニュアルを整備している。救急搬送希望の有無を明確にし、ご家族や管理者への速やかな報告と対応の指示を受け日々の実践につなげている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所での地域連携は図れていないが、隣接の法人施設との協力体制及び警備会社との連携体制を整備している。	火災の避難訓練を法人全体で昼夜想定で1回ずつおこなっている。消防署との連携訓練は年1回である。地震の時の机上訓練も年1回おこなっている。地域との連携はおこなえていないが法人施設との協力体制が取れている。居室の前に車いすを使っている方のマークを張り、誰にでも利用者救助の方法が分かるようにしている。備蓄はリストを作成し法人で3日分保存している。救急救命の講習を職員が受け有事に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアや会議を通して共通認識を図っている。	「接遇」「プライバシー」は職員会議の中で勉強会をおこない、利用者によっては日々変化されることを理解してスタッフ主導にならないように注意してケアをしている。トイレ利用時は座られたことを確認し外で待ち、立たれたら声掛けをするようにしている。入浴時に恥ずかしい思いをされないようにプライバシーにも気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	事業所の基本姿勢として挙げており、職員本位にならないように、専門職として自己決定ができる環境を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	人員体制からゆとりを持った関りは十分に持つことが出来ていないが、その中でも個別ケアや個人の生活リズムへの配慮を行う意識は持っている。		

京都府 グループホーム京都ひまわり園 1階 さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣類を選んだり、理、美容の支援を行っている。選択困難な方には嗜好情報をもとに支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい時間や好みのおやつ等、季節のものや好みのものは入居者の意向を取り入れ用意している。	業者の献立で調理済みの食事が配送され、湯せんで温めて提供している(薄味・季節の食材を使っている)。利用者の力に応じて盛り付け・下膳・配膳・食器洗いを一緒にしている。誕生会には利用者の好みの献立を聞いて、一緒に作っている。季節の行事食は業者のメニューで提供されるのを楽しみにしている。法人の栄養課と共同でもちつきを楽しみ、咀嚼や嚥下のしやすいうづ餅を食べている。おやつは果物が好評であるが、手作りのおやつと一緒に作り楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や水分量などを記録し共有することで、補食対応など状況に応じて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや介助にて各居室の洗面所で口腔ケアを行っている。定期的に歯科衛生士から口腔ケアを受けている方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録し、適切な援助が出来る様、時系列で記録している。時間帯によってオムツの種類を使い分け、可能な限りトイレでの排泄を目指して支援している。	排泄パターンを記録して各々トイレでの排泄を目指して支援している。2人介助が必要な方もトイレでの排泄を誘導している。今迄テープ式だった方も昼間は布パンツ、夜間はリハビリパンツで快適に過ごせるようになった方もある。家族にも今まで使っていた布パンツを持って来て貰うように声掛けをして協力して貰っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や排便を促し易い食品を取り入れる等を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴機会の確保に努め、できる限り一人ひとりの入りやすい時間帯に提供できるように努めている。	朝から夕方まで入浴ができ、週2回以上、時間に制限なく一人ひとりが入りやすい時間帯に入浴を楽しんで貰っている。お湯は毎回入れ替えて、気持ち良く入って貰い、季節湯は柚子湯をしているがしょうぶ湯は検討中である。家族が持ってこられた入浴剤を使っている方もある。介護度5で重度化した方も、家庭浴槽に二人介助で入られている。入浴は皆さん喜ばれ入浴拒否の方は基本的にはおられない。	

京都府 グループホーム京都ひまわり園 1階 さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内温度調整や不安等への心理面への支援を行い安眠できるようにしている。個々の睡眠状況に合わせてアロマ療法を取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は個人ケースファイルに綴じておりいつでも確認できるようにしている。薬の増減薬があった時には職員周知と医療への報告を細やかに行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	主に家事関連活動に重点を置き、一人ひとりがこれまでの生活や現在の身体状況からできる事を役割として持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度外出行事を実施することはできていない。施設前の庭に出て気分転換を図ることが出来るように努めている。	例年だと施設周辺の散歩や買い物、喫茶店にコーヒーを飲み、花見や紅葉を楽しみにドライブでいき、誕生日の個別外出(利用者と一緒に計画をする)に力を入れてきたが、コロナ禍で今年度は施設の前庭で気分転換をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持している入居者はいない。買い物へも行けていないため、支払い等の支援も行えていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば対応している。		

京都府 グループホーム京都ひまわり園 1階 さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある館内装飾を行うようにしている。居間はガラス面が多く明るくなっており、入居者の状況に合わせてソファ等配置を変えている。アロマ療法を継続している。	利用者は日中のほとんどをリビングで過ごし、洗濯物を干したり、たたむ姿が見られた。換気は窓を開けて常時行い、夜間は換気扇を回している。清掃は毎日、職員が掃除機をかけて利用者が紙モップで拭き、清潔で気持ち良くしている。温湿度計で管理をして、オゾン発生器・加湿器・アロマ療法で快適に過ごせるようにしている。リビングは利用者と共に作った季節感のある装飾を飾り季節感を味わって貰っている。テーブルや椅子の配置は利用者同士の関係や食事に集中できるようにしている。テレビは食事中は消して集中できるようにしている。2台のソファでは、一人でくつろいだり、2人で過ごすなどそれぞれに居心地良く過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係性に配慮し座席やソファ等の配置を変更している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や衣類等の準備をしてもらっている。これまでの生活環境から布団のほうが良い方にはそのように対応している。	加湿器やバスタオルを湿らせて吊るして、湿度を上げることに気を付けている。利用者と一緒に居室の清掃をして気持ちよく過ごしている。ハンガーラック・タンス・テレビ・家族の写真や仏壇を持ってこられている。ベッドや畳で過ごす方など家族・利用者の意向を尊重している。持ち込みの少ない方には、利用者の好みを聞いてそろえている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーターは本人の能力に応じて使用している。トイレ案内表示や表札を設置し分かりやすい環境作りに努めている。		